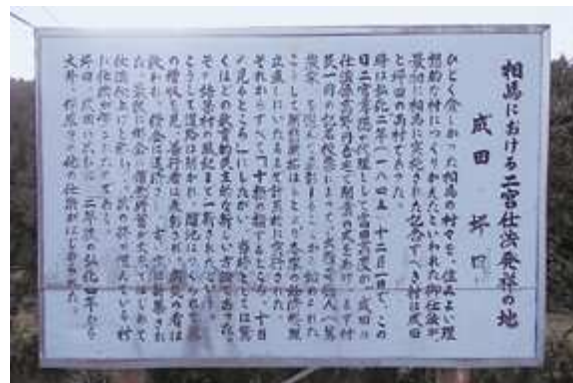


相馬市中村は、江戸時代の大名相馬家のお城があって、城下町として発展しました。こうしたことから相馬市内には報徳仕法の史跡がたくさんあります。



①二宮仕法の発祥の地 相馬市成田・坪田
弘化2年(1845)藩内で最初に実施された村は、成田村と坪田村の2ヶ村です。

ここ見てね!!
P22

④江戸家老草野正辰の墓
相馬市中村 洞雲寺



ここ見てね!!
P35・48・49

⑤国家老池田胤直の墓
相馬市中村 仏立寺



ここ見てね!!
P35



②二宮尊徳の墓・慈隆の墓 相馬市西山
西山にある愛宕金蔵院の跡地に尊徳の墓と尊徳と親しかった僧慈隆の墓があります。尊徳が亡くなった翌年の安政4年(1857)、遺髪を埋め、この墓が建てられました。明治5年(1872)、慈隆が亡くなると、尊徳の墓のとなりに葬られました。



③仕法役所跡 相馬市中村
藩内の仕法にかかわるいろいろなことがここで決められていました。城近くの宇多川岸にあり、川の向いには富田高慶の屋敷がありました。

ここ見てね!!
P22

⑥熊川胤隆の墓
相馬市中村 圓心寺
草野・池田の遺志をつぎ、報徳仕法を続けた家老。



ここ見てね!!
P36

史跡案内地図



⑧斎藤高行の墓
相馬市中村 蒼龍寺境内外墓地
高慶の甥で、高慶とともに報徳仕法を指導した人物。

ここ見てね!!
P33

⑦二宮文の墓
相馬市中村 蒼龍寺境内外墓地
尊徳の子。高慶の妻であったことから遺髪が埋葬された。

ここ見てね!!
P39



南相馬市以外のどこに史跡があるの？—浪江町・双葉町—

南相馬市の南に位置する浪江町・双葉町にも報徳仕法の史跡があります。江戸時代、浪江町は北標葉郷（一部山中郷）と呼ばれ、双葉町は南隣の大熊町とともに南標葉郷と呼ばれていました。



②田末水利碑（平成20年撮影）
浪江町末森香取神社入口
明治26年（1893）建立。



③青根場用水路（平成9年撮影）
高瀬川の水を引いた浪江町の井手から高瀬の丈六ため池までの用水路です。江戸時代前期につくられた用水路でしたが、天明のききん以降、水路の一部が壊れていたため、北標葉郷代官瀬川常明と吟味役手代和田祥重の二人が願い出て改修工事が開始されました。嘉永2年（1849）着工同6年完成。延長6.6km。改修工事は祥重が調査及び工事を担当しました。その際大高倉山に新たに約480mのトンネルを掘り、水の便を良くしました。



④青根場溝開鑿記念碑（平成20年撮影）
浪江町井手
明治30年（1897）建立。



①田尻用水路（平成9年撮影）
高瀬川の水を引いた浪江町の小丸から田尻までの用水路です。延長10.5km。元治元年（1864）着工、慶応2年（1866）完成。ここは高山が連なった難所が多かったが、荒至重らは山腹の絶壁など命がけて測量調査を行い、流路を決め、工事を行いました。



⑤東羽黒ため池（平成20年撮影）
双葉町山田
安政4年（1857）から慶応元年（1865）にかけて改築か。